

平成 25 年度 施策・基本事業評価表(平成 24 年度振り返り)

作成日 平成 25 年 8 月 23 日

基本目標No.	3	基本目標名	健やかで笑顔あふれるまちづくり
施策No.	24	施策名	地域医療の充実
主管課名	健康センター	主管課長名	長井仁美
関係課名	市民課、社会福祉課		

施策が目指すすがた	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域で安心して医療が受けられる体制になっています。 ・症状に応じた医療を受けられる救急体制が整っています。
-----------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担や地域等への期待など	市・事業所	<ul style="list-style-type: none"> ・症状に応じて適正な医療受診に努めます。 ・身近な地域でかかりつけ医を持ちます。
	行政	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が安心して医療が受けられるように医療機関と連携を強化し、救急医療や在宅医療など地域医療医体制を支援します。 ・広報やホームページにより、救急医療機関情報を提供します。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関相互の連携による効率的な医療を提供します。 ・住み慣れた地域で療養生活ができるよう医療サービスを提供します。

施策にかかるコスト等	区 分	単位	22年度実績	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度実績	27年度実績
	A. 本施策を構成する事務事業の数	本数	—	—	3 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
うち基本事業①を構成する事務事業の数(うち自治事務数)	本数	—	—	2 (2)				
うち基本事業②を構成する事務事業の数(うち自治事務数)	本数	—	—	1 (1)				
うち基本事業③を構成する事務事業の数(うち自治事務数)	本数	—	—					
うち基本事業④を構成する事務事業の数(うち自治事務数)	本数	—	—					
B. 事業費 (事務事業の事業費合計)	千円	—	—	83,038	0	0	0	
うち基本事業①を構成する事務事業の事業費小計	千円	—	—	76,764				
うち基本事業②を構成する事務事業の事業費小計	千円	—	—	6,274				
うち基本事業③を構成する事務事業の事業費小計	千円	—	—					
うち基本事業④を構成する事務事業の事業費小計	千円	—	—					
C. 施策に携わる正規職員数合計	人	—	—	5				
D. 事務事業に要する年間総時間	時間	—	—	1,100				
E. 人件費 (D×1時間あたりの平均人件費4,399円)	千円	—	—	4,839				
F. トータルコスト (B+E)	千円	—	—	87,877	0	0	0	
市民1人あたりにおける施策の								
G. 事業費 (定義式 : B/人口)	円	—	—	1,874				
同上								
H. 人件費 (定義式 : E/人口)	円	—	—	109				
同上								
I. トータルコスト (定義式 : F/人口)	円	—	—	1,983				
参考	魚津市の人口	人	—	—	44,315			

施策No.	24	施策名	地域医療の充実
-------	----	-----	---------

23年度の 評価結果 (基本事業 の成果を考 慮し記載)	1. 施策(基本事業)の成果水準とその背景(近隣他市や以前との比較、特徴、その要因と考えられること)
	ア. 成果水準の推移(成果水準がここ数年どのように推移しているかを中心に記述)
	・平成24年度のまちづくり市民意識調査で「救急医療体制の満足度」について調査を行った結果、救急医療に満足している割合は、43.6%で前年より上昇しました。 ・在宅医療推進として、労災病院の地域医療連携室が充実したことにより、在宅医療連携事例が大きく伸びました。 (平成23年度→40人、平成24年度→178人)
	イ. 近隣他市との比較(成果水準が近隣他市と比較してどうであるかを中心に記述)
	・市内では休日の一次救急体制(在宅当番医制)は整備されているものの、夜間の初期救急は黒部市民病院内の小児急患センターしかなく、一般・成人の夜間の一次救急は実施していません。
	ウ. 住民期待水準との比較(成果水準が住民が期待していると思われる水準と比較してどうであるかを中心に記述)
	・夜間の一次救急診療体制の整備を望む声があります。(二次救急病院である富山労災病院にゆだねています。) ・市内の医療機関は比較的充実していますが、分娩施設や小児科の入院施設がない状況であることから、市内におけるそれらの開設が望まれています。 ・脳卒中等の疾病を持つ患者(その家族)からは、急性期病院(労災・黒部市病など)を退院した後の回復期リハビリ病院を望む声があがっています。(市内には回復期リハビリの施設はない。県東部の回復期リハビリ施設は、高志リハビリHP(富山市)、池田リハビリHP(黒部市)、あさひ総合HP)。また、それ以外の疾病に関しても、退院時、安心して在宅生活へ移行できるよう医療連携の仕組みが求められています。
	2. 施策の成果実績に結びついているこれまでの主な取り組み(事務事業)の総括 (ここ数年の間、施策及び基本事業の成果向上に貢献してきた主な事務事業の取組み内容を中心に記述)
	【救急医療体制の充実】 ○一次救急体制支援 ・富山県地域医療再生計画により、富山労災病院内で初期急患センターの整備が決定しました。 ○地域中核病院支援事業 ・魚津市唯一の総合病院であり「地域がん診療連携病院」である富山労災病院に対して、PETやリニアック機器を有償貸与して、身近な地域でがんの早期発見・早期治療が実施できる体制を支援しています。 ・富山労災病院改築基本構想検討委員会に市からは、分娩施設や小児科の開設を要望しました。 【在宅医療の推進】 ・在宅医療に関する市民公開講座や事例検討会などに参加するとともに、在宅医療を実施している「※メディカルネット蜚気楼」への支援を行いました。
	3. 施策の課題認識及び取り組み状況 (前年度末で残った課題、既に現年度で取り組んでいること、又は取り組むこととしている予定を記述)
【救急医療体制の充実】 ・新しい富山労災病院内における一次急患センターの整備に向け、具体的な運営体制について医師会・労災病院と協議します。 ・富山労災病院に分娩施設や小児科の開設を引き続き要望します。 【在宅医療の推進】 ・在宅医療や訪問歯科診療について、市民に周知し利用者の増加を図ります。 ・病院から在宅生活へ安心して移行できるよう病診連携(病院→在宅)及び医療と介護の連携の仕組みを構築し、推進します。	

部会評価 (協議結果、 今後の方針 及び課題等 について記 載)	施策の重要度	重点
	【救急医療体制の充実】 市民が安心して医療が受けられるように、新しい富山労災病院内における初期急患センターの運営体制について関係機関と協議します。また、救急医療の適正な利用について市民へ啓発に努めます。 【地域中核病院支援事業】 新しい富山労災病院における分娩施設や小児科の開設に向けて、産科医・小児科医師の確保について、近隣大学病院や国、県に引き続き要望します。また、急性期・高度医療・がん診療拠点病院として引き続き支援します 【在宅医療の推進】 2025年の地域の姿に対応した病床機能の再編、医療・介護連携、地域包括ケアシステムの構築、在宅医療の推進について、関係機関と協議していきます。	

行政経営 戦略会議 評価 (施策の課題 及び方針)	施策の重要度	一般
	◆救急医療の適正な利用について、市民への啓発に努めます。 ◆安心して在宅医療が継続できる体制を構築するために、在宅医療・介護に関する職種の連携を図り推進します。	